

インフォメーション

問い合わせ・申込み：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp

サポセンスタッフから

ーマチノワギャラリー 10月の展示のご案内ー



クリスマスはNPO 法人チャリティーサンタでボランティアしよう

【10月の展示】

団体名：NPO法人チャリティーサンタ仙台支部

NPO法人チャリティーサンタは、サンタを待っている子どもに笑顔を届けるため、東京を拠点に活動する団体です。2008年に活動を開始し、全国に30支部あります。「あなたも誰かのサンタクロース。」を合言葉にボランティアがサンタクロースに扮し、子どもたちにプレゼントを届けに行きます。市民の方からお預かりしたチャリティーの収益金は日本の子どもたちにとどまらず、世界中にいる困難な状況にある子どもたちの支援に使われます。全国からの寄付を基に2017年までの9年間で、11,795人がサンタクロースになり、21,882人の子どもたちにプレゼントを届けてきました。マチノワギャラリーでは、クリスマスに向け、ボランティアの募集と活動紹介を行います。

ーマチノワギャラリーで皆さんの活動をPRしませんか？ー

サポセンの正面玄関風除室にあるマチノワギャラリーは、市民活動やボランティア活動など、団体の活動をPRできる展示スペースです。通りがかりの人やサポセン来館者に皆さんの活動について発信することができます。「活動はしているけれど、PRの場所がない」、「さらに活動を普及させたい」という団体のみなさん、ぜひご利用ください。お待ちしております！(鎌田)



サポセンスタッフから



「自分のまちをもっと良くしたい」若者を、応援しています！

仙台には、地域や社会の課題解決に取り組む若者がたくさんいます。サポセンでは、地域機関と連携し地域で活躍する若者を応援しています。宮城野区中央市民センターの若者社会参画型学習推進事業「まいぶろかべしんぶん部」では1年間に市内の大学生や高校生が壁新聞づくりを通して地域の活動やまちづくりに主体的に関わる機会をつくっています。サポセンでは、平成26年度から事業企画や講師コーディネートなどお手伝いをしています。今年度の前期では「原町商店街&八幡商店街」の壁新聞を作成。実際にまちあるきをし、商店街の人々へ街の課題や魅力取材しました。後期の10月からは、「仙台うみの杜水族館」の壁新聞を作成します。後期壁新聞の完成は12月末を予定しています。活動の様子は、サポセンブログでご覧いただけます。(舞草)



つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい／団体を立ち上げたい／組織運営の悩みを解決したい／他の団体や他のセクターと連携したい／自分のスキルを地域や社会に役立てたい...

今月の休館日 10月10日(水)、24日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日)年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ／地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分

[HP]http://www.sapo-sen.jp [Blog]http://blog.canpan.info/fukkou/ [Twitter]@sensapo

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日]

市民ライターや学生記者が、
仙台の市民活動団体やワクワクビトを取材しています！

▶市民ライター
http://blog.canpan.info/fukkou/category_23/1
▶情報ボランティア@仙台
https://ja-jp.facebook.com/jyoho.volunteer.sendai

▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。
▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっと読者アンケート]サポセンホームページからアクセス
いただくか、携帯電話等で2次元バーコードを読み取ってご利用ください。



発行 仙台市市民活動サポートセンター
発行日 2018年10月1日
編集 特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
デザイン PEACE Inc.
編集人 太田貴 菅野祥子 松村翔子 鎌田みずほ 水原のぞみ
発行部数 3000部
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

ぱれっと 10

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2018 No.230

“ぱれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、
それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

今月の
ワクワク
ビト

仙台・杜の都のクラフトフェア実行委員会

ますだ しゅういち
増田 周一 さん (39)

‘作り手’と‘使い手’の 出会いの場を仙台に

毎年10月第1金曜、土曜日の2日間行われる「仙台・杜の都のクラフトフェア」。仙台市青葉区サンモール一番町商店街のアーケード内に、宮城県内外のクラフト作家が自らの作品を並べ販売するブースが並びます。金属作家の増田周一さんは作家として出展するだけでなく、企画や運営に関わっています。

増田さんは作家活動の一環として、クラフト作家の登竜門、長野県の松本など全国各地のクラフトフェアで作品を手売りしてきました。お客さんからの反応を直接感じることで、作品への自信と作家として経済的な自立への希望を得ることができました。「仙台にも‘作り手’と‘使い手’の出会いの場をつくり、作家が挑戦できる場にしたい」と、仲間たちと2010年、第1回目開催に至りました。この8年間で得たものは、時間をかけてモノを選ぶお客さんとの出会いです。「他人や世の中に流されずに自分が心から好きだと思えるモノを選びとれる場になれば」と今後に願いを込めます。

取材・文 市民ライター 平塚 千絵

特集

地域も農業も明るく楽しくしたい

過去・現在・未来を紡ぐ「わらアート」

仙台・杜の都の
クラフトフェア実行委員会

HP:http://r.goope.jp/sendai-cf/

金属工房「飾」

HP:http://www.kazaribito.com/

クラフトフェアは、2010年に増田さん含む有志3人から始まりました。多くの市民に関わるようになり、2015年に実行委員会を結成。現在、20人前後のボランティアをメンバー5人がまとめます。2018年は、10月5日(金)から10月7日(日)までの3日間で開催。陶芸の器、木工家具、ステンドグラスのオブジェなど、手仕事による作品が並ぶ予定です。出展数は2010年開催の42工房から、2018年は72工房へと増加しました。2019年には10回目の節目を迎えます。詳しくは、HPにてご確認ください。

地域も農業も明るく楽しくしたい 過去・現在・未来を紡ぐ「わらアート」

仙台市若林区の東部に広がる、豊かな田園地帯。東日本大震災の津波で大きな被害を受けましたが、今では再び美味しいお米や野菜が生産できるようになりました。一方で、集団移転による人口減少や農家の高齢化の影響、休農により一度途絶えた販路の回復など若林区の農業の未来には課題が山積しています。被災直後から継続的に現地で支援活動をしてきた市民団体が企業とともに地域おこしに取り組む事例を紹介します。

同じまちにいる企業として、地元の人とともに
地域課題に取り組んでいきたい

KDDI株式会社東北総支社
管理部

ひがしじま まさゆき
東島正幸 さん



農村文化の魅力を発信して、
地域を活性化させたい

一般社団法人ReRoots
代表

ひろせ つよし
広瀬剛史 さん



多くの人が訪れる、楽しい地域づくりを目指して

2018年9月15日、仙台農業園芸センターにティラノサウルス親子とトリケラトプスが登場しました。全長約4mの体は、木材の土台と「わら」で作られたもの。多くの人々の努力によって震災の被害からよみがえった若林区の田んぼの稲わらを使った「わらアート」です。見るだけでなく触ったり、記念写真を撮ったり、大人も子どもも楽しめるイベントです。

わらアート制作の中心を担うのは、若林区を拠点に市内の大学生など80人が活動する一般社団法人ReRoots(以下、ReRoots)。震災後の避難所ボランティアから始まり、若林区沿岸部の農地再生支援に携わってきました。2014年に農地の復旧が完了したものの、高齢により農業再開を諦める人もいます。「以前のような風景や暮らしを取り戻すには地域おこしが必要不可欠です」と代表の広瀬さん。現在は農業と農村の再生を目指した地域おこしに力を入れています。わらアートは多くの地域住民や市民ボランティアとともに制作しており、そこには電気通信事業を行うKDDI株式会社東北総支社(以下、KDDI)の社員も加わっています。

ともに出来ることを、ともに考える

2015年12月、地下鉄東西線開業イベントが「わらアート」の本格的な始まりでした。広瀬さんらReRootsのメンバーは、多くの人に沿岸部を訪れてもらおうと、地域資源を生かしたグリーンツーリズムなど

の魅力発信事業を検討していました。偶然目にしたニュースで「わらアート」を知り挑戦。2015年2月に試作したところ地元の人たちにも好評で、これまで継続してきました。

KDDIが関わり始めたのは2016年。きっかけを作ったのは、2015年春に転勤で仙台にやってきた、企業の社会貢献活動などを担当する管理部の東島さんでした。報道等から「復興は完了し地方創生の段階」というイメージを被災地仙台に抱いていましたが、「実際の状況を見るとまだまだ復興の途上だと感じた。震災以前の水準を取り戻さなければ復興とは言えないと思う」と東島さん。「復興のために自分たちにできることは何だろう」と考えながら日々を過ごしていました。転機はその年の秋。仕事の一環で東北大学の学園祭を訪れ、サークル紹介のブースでReRootsを知りました。地元の人たちとともに活動を継続している様子に共感。地域おこしを掲げていることから、東島さんは「一緒に面白いことができるかもしれない」と直感。早速「自分たちにもできることはないですか」と広瀬さんを訪ねました。若林区では農地復旧を終え、大規模なボランティア募集が終了しており、ReRootsは新たな「人と地域の関わり方」を模索していました。広瀬さんは東島さんに、ひまわりを植えることで営農が再開されない土地に彩りを添える「ひまわりプロジェクト」や、復興をアピールする「わらアート」などへの参加を提案。2016年7月から一緒にひまわりを植え始め、同年10月には



連絡先 ●KDDI 株式会社東北総支社 管理部
〒980-0811 仙台市青葉区一番町 4-1-25 東二番丁スクエア 14 階
TEL: 022-262-0698 FAX: 022-262-4633
●一般社団法人 ReRoots 若林ボランティアハウス
〒984-0033 仙台市若林区荒浜字今泉 59-3
TEL/FAX: 022-762-8211 mail: reroots311@yahoo.co.jp

「わらアート」の下準備「わらあみ」の作業を行いました。広瀬さんは、活動後にKDDIの社員たちに被災地を案内したり、若林区で採れた野菜で食事をふるまったり、地域を知ってもらう工夫も取り入れました。KDDIは全国企業で、東島さんのように転勤で県外からやってくる社員も多く、転勤先の土地の文化や暮らしを知るのは、参加した社員にとってとても大きな収穫でした。東島さんは「“小さな語り部”として社内、家庭、友人、そして次の転勤先でここで知ったことを広めてもらえたら」と期待します。

対話から関係が築かれ、協働が生まれていく

広瀬さんは、東島さんたちに葦原や貞山運河など、地域資源を生かした地域おこしのアイデアを忌憚なく話します。東島さんは「将来的には、通信業の技術を生かした農業支援もできたらいいですが、まずはお話ししながらできることからともに取り組んでいきたい」と寄り添います。農村文化を体験できる「縄ない・しめ縄ワークショップ」や、KDDI社内で若林区の農作物を発信する「マルシェ」なども計画中。対話の中からともにできることを探すスタイルで、確かな協働関係が築かれています。(取材・文 菅野祥子)

ここチェック

2018 仙台わらアート～おいしい! 若林～

わらアートの展示、若林区で採れたお米や野菜販売、地域で活動する団体のステージ発表などがあります。どなたでも参加できます。
日時:2018年9月15日(土)～12月9日(日)
会場:せんだい農業園芸センターみどりの杜
(仙台市若林区荒井字切新田13-1)
問い合わせ:sendai_waraart@yahoo.co.jp
主催:せんだいわらアート実行委員会

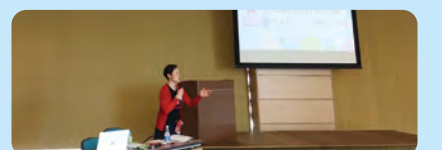


次への一步を踏み出せるように
市民ライター 泉久恵

「若年性乳がんを体験した仲間の力になりたい」と話す菅原祐美さんは、PinkRing東北branch(以下、東北branch)の代表として仙台市内を拠点に活動しています。東北branchは、乳がん当事者が基盤となり、東京を拠点に活動する若年性乳がんサポートコミュニティPinkRingの東北支部です。乳がんと診断を受けた方が1人で塞ぎこむことのないよう、季節ごとに当事者同士が情報共有できるおしゃべり会や医療従事者が正しい情報を伝える講演会を開催しています。若年性乳がん体験者は、仕事、結婚、出産、子育てといったライフイベントと治療が重なるがゆえに、特有の悩みを抱えています。「精神的にも辛いとき、仲間同士励ましあえて良かった」「正確な知識を得ることで悩みが解決した」など、患者たちの助けとなっています。

東北branchは、2017年に設立。きっかけは、菅原さんの発病でした。2016年7月PinkRing東京開催のイベントを偶然ネットで見つけ参加。「その頃通院していた病院に、同世代の乳がん患者はおらず、孤独感が強かった」と振り返ります。菅原さんは、病気のすべてを受け入れイベントを運営する事務局メンバーに出会い、その堂々とした笑顔や優しさに衝撃を受けました。と同時に、「同じ境遇の仲間に出会い、暖かく包まれた」と話します。「それまで病気の陰に隠れていた」と、菅原さんは心機一転。東北で当事者同士の輪を広げたいと決心しました。

「病気になったことはどう悔やんでも現実起こってしまったこと。病気を人生の糧にしたい」と、前向きな言葉が印象的でした。



▲これまでのイベントには、毎回約20名の参加があります。

■連絡先

東北branch 代表 菅原 祐美
問い合わせ pinkring.touhoku@gmail.com
HP <http://www.pinkring.info/>
メール会員登録http://mail.pinkring.info/empty_mail/

お役立ち本

ファシリテーターの工具箱

著者:森時彦 発行:ダイヤモンド社

会議やワークショップで重要なファシリテーター。その役割は議論を活性化し効率的なものにすることです。本書ではそのための49の技法が図解付きの見開きページで完結にまとめられています。アイスブレイクでの顔じゃんけんといった初心者向けから、上級者向けの方法まで幅広く内容が詰まっており、この工具箱から自分にあったツールを5個身に着ければ、効果的なファシリテーションができると著者は語っています。



コラム

東北大学病院ボランティア随時募集中!

東北大学病院は、患者さんにやすらぎを感じてもらおうと、現在、花の植栽や敷地美化に携わるガーデンボランティア、院内案内、緩和ケア病棟のボランティアを随時募集しています。草花が好きな方、人と接するのが好きな方、ボランティア活動が初めての方も大歓迎です。

問い合わせ:東北大学病院ボランティア室

〒980-8574仙台市青葉区星陵1-1

TEL 022-717-7820 FAX 022-717-7997

Mail hos-volunteer@grp.tohoku.ac.jp

